

“今週の国際宇宙ステーション（ISS）”

最初のISS構成要素打上げから1397日経過しました
第5次長期滞在クルーのISS滞在は102日経過しました

ISS動向

第5次長期滞在クルーはプログレス無人補給船とスペースシャトル・アトランティス号の到着準備を行うとともに、科学実験やISS内のシステムの装置交換などの保守作業を行っています。

9月16日、NASAオキーフ長官はウィットソン宇宙飛行士を初のISS Science Officer（ISS科学実験主任）として任命しました。これはISSでの科学実験を積極的に実施していくための役割であり、今後長期滞在クルーごとにNASAの宇宙飛行士から1名任命されることになりました。



ISS科学実験主任に任命されたウィットソン宇宙飛行士

これからの予定（米国時間）

- ・9月25日 ソユーズロケットによるプログレス無人補給船の打上げ（打上げ地：バイコヌール宇宙基地、カザフスタン共和国）
- ・10月2日以降 スペースシャトル・アトランティス号打上げ（アメリカ）（ISSへS1トラスの取付け）



アトランティス号の射点への移動の様子(9月10日)

スペースシャトル・アトランティス号、射点へ移動

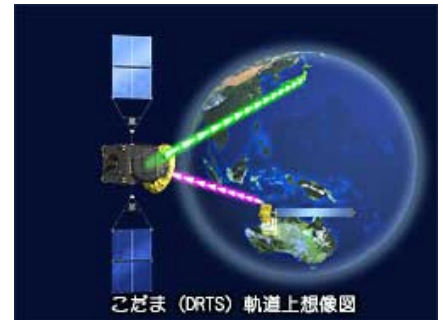
10月2日の打上げに向けて、スペースシャトル・アトランティス号はシャトル整備棟から射点へ移動しました。現在、射点において最終整備が行われています。

“今週の「きぼう」”

データ中継技術衛星「こだま」打上げ

9月10日（火）、宇宙開発事業団はデータ中継技術衛星「こだま」をH-IIAロケット3号機で打ち上げました。

「こだま」は国際宇宙ステーションを含む高度1000km以下で飛行する人工衛星が送信するデータを地上へ中継するための静止衛星です。人工衛星から直接地上へデータを送信しようとすると地上の受信設備が数多く必要ですが、「こだま」などのデータ中継衛星を利用すると少ない地上設備で通信可能となる時間帯を大幅に延ばすことができます。また、日本実験棟「きぼう」の打上げ後には「きぼう」で行われる実験のデータや「きぼう」内部の映像なども「こだま」を中継して地上へ送信される予定です。



現在、「こだま」は順調に飛行しています。追跡管制の状況については下記アドレスをご参照下さい。

http://h2a.nasda.go.jp/report/index_j.html

“お知らせ”

研究者・技術者を対象に「サイエンス・フロンティアつくば2002」を開催

今年は筑波宇宙センターが設立されて30年目にあたります。宇宙開発事業団はこの30周年を記念して、9月20日（金）、宇宙の様々な利用に関するシンポジウム「サイエンス・フロンティアつくば2002」を茨城県つくば市のつくば国際会議場（エポカルつくば）で行います。

このシンポジウムは研究者・技術者を対象としており、つくばサイエンス・アカデミーとの共催で行うものです。毛利宇宙飛行士や井口宇宙環境利用研究システム長の基調講演やパネルディスカッションなどが予定されています。

シンポジウムの詳しい内容や参加方法については下記アドレスをご覧ください。

<http://www.ics-inc.co.jp/sft2002/>

問い合わせ先：宇宙開発事業団 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 0298-68-3074

ISS・きぼうホームページ <http://jem.tksc.nasda.go.jp> Eメール kibokoho@nasda.go.jp

「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。